

第4章 計画の目標と体系

第一 計画の目標

1 目標

社会の一層のデジタル化を踏まえ子どもの読書活動を幅広く捉え、
図書館・学校・家庭・地域が連携して、
豊かな読書体験の機会を創出し、ウェルビーイングにつなげる。

デジタル化の急速な進展は、情報収集、コミュニケーションのツールとしてインターネットやデジタルメディアを子どもたちにも身近なものとししました。こうした状況の中で、子どもたちの読書活動も、新しい形で捉えていくことが必要です。

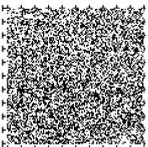
このような状況においては、「読書」を、紙の本だけでなく、電子書籍やオーディオブック等、デジタル技術を活用した読書をも含めたものとして捉えることが求められます。

紙の本だけでなく、デジタルメディアも活用しながら、誰もが簡単にアクセスできる読書環境を整えていくことで、読書の楽しさや知識の広がりを楽しむことができるようにしていくことを目指します。

また、このような読書体験を充実させるためには、図書館・学校・家庭・地域が連携して子どもたちを支えることが不可欠です。各主体がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に補完し合うことで、子どもたちの多様な読書環境を実現します。

本計画では、すべての子どもたちがデジタル社会の中でも豊かな読書体験を享受し、心身ともに健やかに成長できる環境を整えます。

すべての子どもたちが、より身近に本と触れ合い、知識や感性を深め、豊かに人生を歩む力を育むことで、ウェルビーイングにつなげてまいります。



2 段階別目標

本計画では、成長過程に応じた段階的な取り組みを進めることを前提として、段階別目標と、すべての段階に共通するものとして、支え手としての大人たちの目標、より良い読書環境を整えるための目標を、次のように掲げます。

(1) 乳幼児期

保護者等、安心できる人たちとふれあう中で、「わらべうた」等を聞き、声を聞く心地よさを味わい、絵本を読み聞かせてもらって言葉を育み、いろいろな本に親しみます。

(2) 小学生段階（義務教育学校前期課程に通う児童を含む）

読み聞かせからひとり読みへスムーズに移行し、様々な本に出合って、読書の世界を広げるとともに、本等を活用して知りたいことを調べる力、情報を取捨選択する力を身につけます。

(3) 中学生段階（義務教育学校後期課程に通う生徒を含む）

一人ひとり異なる読書興味を追求するとともに、本やインターネットから得た情報を活用し、社会に主体的に関わろうとする意識・意欲を育み、そのための能力を高めます。

(4) 高校生段階

読書の幅を広げるとともに、本やインターネットから得た知識・情報を活用して、主体的に社会へ参画し、情報を発信する側に立つべく、情報活用能力を身につけます。

(5) 大学生段階

地域の大学生世代同志がつながり、中学生・高校生ともつながって、区の子ども読書活動推進の一翼を担うことを目指します。

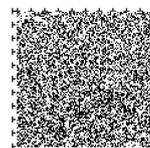
(6) 保護者等周りの大人たち

子どもたちと一緒に、読書を楽しみます。本を読むことをためらう子どもたちも、少しの手助けで読むようになることを認識し、実際に読書へ導くことを目指します。

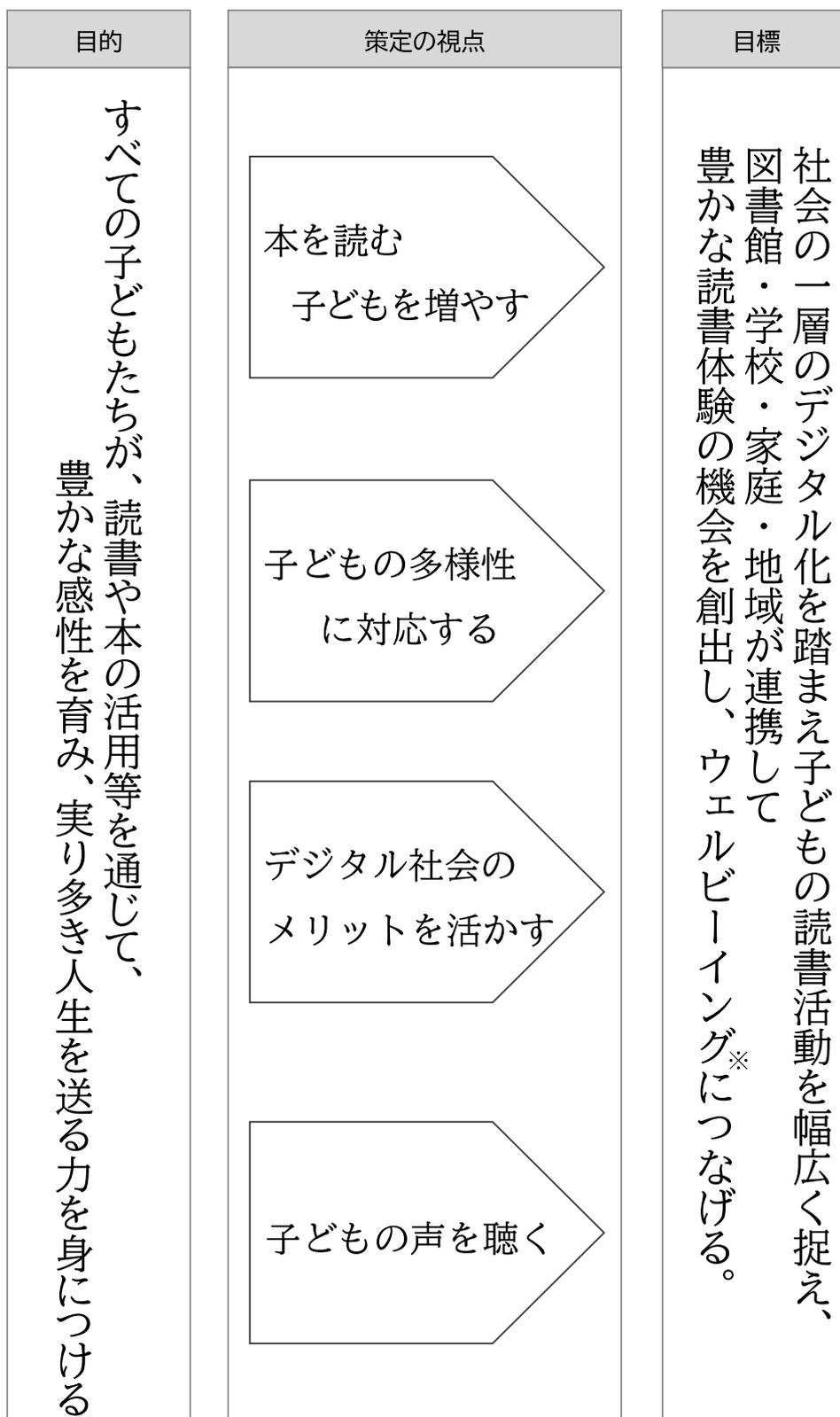
(7) より良い読書環境のために

誰もが、気軽に、読書の楽しさを味わえる環境づくりを目指します。

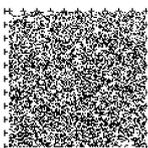
- ①障害の有無に関わらず、誰でも読書に親しめる環境づくり
- ②多言語で読書ができ、日本語習得の支援にもつながる環境づくり
- ③身近な場所で読書につながることでできる環境づくり



第二 計画の体系



※ウェルビーイング：誰もが自分らしくそれぞれの幸せや生きがいを感じるとともに、社会全体が幸せや豊かさを感じられること



段階別目標

【乳幼児期】

保護者等、安心できる人たちとふれあう中で、「わらべうた」等を聞き、声を聞く心地よさを味わい、絵本を読み聞かせてもらって言葉を育み、いろいろな本に親しみます。

【小学生段階】

読み聞かせからひとり読みへスムーズに移行し、様々な本に出合って、読書の世界を広げるとともに、本等を活用して知りたいことを調べる力、情報を取捨選択する力を身につけます。

【中学生段階】

一人ひとり異なる読書興味を追求するとともに、本やインターネットから得た情報を活用し、社会に主体的に関わろうとする意識・意欲を育み、そのための能力を高めます。

【高校生段階】

読書の幅を広げるとともに、本やインターネットから得た知識・情報を活用して、主体的に社会へ参画し、情報を発信する側に立つべく、情報活用能力を身につけます。

【大学生段階】

地域の大学生世代同志がつながり、中学生・高校生ともつながって、区の子ども読書活動推進の一翼を担うことを目指します。

より良い読書環境のために

誰もが、気軽に、
読書の楽しさを味わえる
環境づくりを目指します。

障害の有無に関わらず
誰でも読書に親しめる
環境づくり

多言語で読書ができ
日本語習得の支援にも
つながる環境づくり

身近な場所で読書に
つながることができる
環境づくり

【保護者等周りの大人たち】

子どもたちと一緒に、読書を楽しみます。
本を読むことをためらう子どもたちも、少しの手助けで読むようになることを認識し、実際に子どもたちを読書に導くことを目指します。

